

研修名 全体研修

平成27年8月18日(火) 13:00~15:30

講演「子育てハッピーアドバイス～大好き！が伝わるほめ方・叱り方～」

講師 明橋 大二 氏

1 講演要旨

- 1) 今の子どもをめぐる問題の根っこは、「自己肯定感の極端な低さ」
自己肯定感＝自己評価、self-esteem
自己肯定感が土台にあってこそしつけ、勉強ができていく
- 2) 今の子どもたちの自己評価は決して高くない
 - ① 自分は価値のある人間だと思う、と答えた高校生の割合
日本 36.1% 米国 89.1% 中国 87.7%

(H23年「高校生の心と体の健康に関する調査」日本青少年研究所)
- 3) 子どもにとって一番大切なのは、自己肯定感
- 4) どうしてそんなに自己評価が低くなるのか
 - ① 虐待
 - ② 関わりが希薄
 - ③ ひといちばい敏感な子 (Highly Sensitive Child:HSC)
- 5) 子どもは、どのように成長するか
 - ① 依存と自立の繰り返し…十分に甘えた人が自立している。自立の為に甘えはとて必要。
 - ② してはいけないこと…過干渉(抑圧)と放任。
 - ③ 手のひらの中の卵…しめつけすぎず、話しすぎず適度な力加減で接する。
 - ④ 「甘えさせる」と「甘やかす」の違い…「甘えさせる」は情緒的な要求に応えること。「甘やかす」は物質的な要求に応えること。
- 6) 反抗期—反抗したら—安心
 - ① 反抗するという事は、十分甘えてきてきたということ。反抗すべき時に反抗できることはいいこと。親の前で反抗(甘え)を出せることは安心。
- 7) 自己肯定感を育てるために具体的な対応
 - ① スキンシップ、話をきく
 - ② 子どもの気持ちを汲んで、言葉として返す
 - ③ ほめる… i)できていないところよりできているところに注目
ii)できて当たり前でなくできなくて当たり前
iii)比較するなら以前のその子と
 - ④ しかる… i)目を合わせて、簡潔にきっぱりと。
ii)あなたメッセージではなく、私メッセージ
iii)「〇〇してはダメ」ではなく「〇〇しなさい」
iv)中尉は根気強い繰り返し
 - ⑤ 子どもの頑張りを認めてねぎらう。
 - ⑥ ありがとうと伝える。



8) 子どもにキレてしまうとき

- ① 過度の責任感を持っている…肩の力を抜く
- ② 子どもを変えようとするよりも、子どもが今すでにもっているいい所に注目する。

9) 各論

- ① 母親への対応… i) 母親自身が、自己肯定感が低い。
ii) 母親を責めない。まず今まで育ててきたことに対する敬意とねぎらい。
iii) 事実は伝える。しかし、希望の持てる言い方で。
- ② キレル子… i) 8割は虐待、体罰を含めた厳しすぎる養育が背景。
ii) 基本は、気持ちを言葉で表現できるようになること。
iii) ひどい時は、個別の対応が原則。
- ③ べたべたしてくる子… 家庭で十分なスキンシップをとることが出来ていない。
- ④ 母子分離不安
- ⑤ 障害受容の困難な母親
- ⑥ 親にそのまま伝えにくい時→子どものエンパワメント
- ⑦ 発達障害… 最も大切なことは、二次障害(自己肯定感の低下)を防ぐこと
- ⑧ 虐待… i) 疑わしきは通告。
ii) 児童相談所、地域との協力(要保護児童対策地域協議会)
iii) 親のサポート

10) 「子が宝なら、母もまた宝」

子ども支援の目標は、子どもの自己肯定感を育むこと。子育て支援の目標は、親(特に母親)の自己肯定感を育むこと

2 感想

今回の研修では、子どもの心を豊かに育てていくことの大切さを学ぶことが出来た。講義の中で度々【自己肯定感】というワードが出てきていた。自己肯定感という土台がしっかりしてこそしつけや勉強が身に入っていくというお話だった。講義を受ける中で自己肯定感とは生きる力そのものなのだと知り、子どもたちの自己肯定感を高めていくことこそ保育を行う中で私たち保育士が最も大切にしていかななくてはならないことなのだと感じた。子どもの心を育てる為には子どもが求めているだけの甘えをしっかりと受け止めてこたえていくようにしたいと思った。特に気を付けてみていかなければならないなと思ったのは大人しくて良い子の存在だ。良い子というのは褒められたくて頑張るが良い子なので褒められなくても怒られなくても放っておかれることで自己肯定感がうまれにくい。褒められないのでもっと良い子になろうと頑張ろうとしてしまう。保育を行う中で手がかかる子にどうしても目がいきがちになってしまうが、どの子の甘えにも求める分だけ答えていけるような保育をしていきたいと思った研修だった。

(記録 城陽市立青谷保育園 殿谷 あづみ)